

日朝における生活改善運動と衣生活の近代化  
The Livingly Improvement Movement and the Modernization of Clothes Life in Japan and Korea

井上 和枝<sup>\*1+</sup>, 井内 智子<sup>\*2+</sup>, 柿本 鶴子<sup>\*2+</sup>

Inoue Kazue<sup>\*1+</sup>, Iuchi Tomoko<sup>\*2+</sup>, and Kakimoto Tsuruko<sup>\*2+</sup>

\*1 鹿児島国際大学国際文化学部 鹿児島市坂の上 8-34-1

The International University of Kagoshima, Faculty of Intercultural Studies,  
8-34-1 Sakanoue Kagoshima-shi

\*2 東京大学大学院人文社会系研究科博士課程

The University of Tokyo, Sociology/Faculty of Letters, Ph.D. program student

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract: For basic work to know livingly improvement movement in Japan and Korea in modern times and the changes of clothes life, we collected the investigation, a precedence study and basics documents and interviewed. And we are in the process of analyzing them.

## 方法

研究第一年目に当たる 2009 年度は、「日朝における生活改善運動と衣生活の近代化」研究のための基礎的作業として、研究動向の把握・先行研究収集・基礎資料の収集に力を入れた。

[1] 近代以降の朝鮮人の衣生活変化を直接的・視覚的に表す写真等のビジュアル資料の収集と地域的・時系列的検討。

[2] 日本と朝鮮の衣生活改善運動とそれによる服装の変化に関連する先行研究・資料の収集、収集資料による両国の生活改善運動の連関考察。

[3] インタビューによる生活改善運動の具体的普及状況と衣生活の変化の実態の解明。

## 結果と考察

〔1〕 近代以降、開化期から植民地期における朝鮮人の衣生活の変化を直接に表す資料として、最近刊行が相次いでいる写真や写真絵はがきを収録した資料を網羅的に収集し購入した。これら西洋人や日本人が撮影した写真等のビジュアル資料の中から、朝鮮人の服装がわかるものを抽出し、地域的差違と時系列的変化を検討している。洋服と韓服の割合の変化、韓服の場合の色彩・形の変化を中心に分析中である。

〔2〕 大正末から昭和初期にかけての(朝鮮の場合植民地期)の生活改善、特に衣生活改善運動による服装の変化に関する先行研究および資料の収集を行った。

特に重点を置いたのは、①日本農村における服装の変化、②植民地化朝鮮で総督府が押し進めた

---

\*1) kazue9228@nifty.com

衣生活の改善は現実にどの程度浸透し、どのような服装の変化をもたらしたのか、③衣生活改善の重点項目である色衣奨励運動の根幹となる染色講習会に対してである。

#### (1) 日本女性の労働着の変化

①の場合、女性の農作業着の変化に注目し、同時代の文献資料や、民俗学の調査、自治体史の記述や写真資料を収集し、併せて博物館等での現物資料の撮影にも努めた。調査地としては、山梨県を中心に、山梨県立博物館や県立図書館郷土資料室所蔵史料の閲覧と複写を行った。それらの資料を検討した結果、以下のような知見を得た。

山梨県には明治時代以降、長野県からズボン型の下衣であるカラサンが流入し、1930年代には県南部の南都留郡や北部の北巨摩郡で女性用の農作業着としてカラサンの普及運動が行われた。また、阪急学園池田文庫(大阪府池田市)で、阪急電鉄や阪急百貨店などの創業者である小林一三の生家、小林家(山梨県北巨摩郡韮崎町)に伝来した木屋文庫を調査した。

長野県では、小県郡和村(現東御市和)のJA和支所および和小学校の所蔵史料を調査した。同県での服装の変遷は現在調査中だが、1935年に長野県で開催された産業組合大会では、上衣と、ズボン型の下衣からなる改良服の紹介もあったことが確認できた。

さらに国立公文書館つくば分館では、満洲拓植公社の旧蔵史料を閲覧・複写した。満洲拓植公社は、1937年に設立された日満合弁の国策会社で、日本人の満洲農業移民への金融や物資援助、農業経営や農村生活の指導を行っていた。満洲農業移民には、移住前の講習でズボン型下衣である「もんぺ」製作と着用を指導されていた可能性があり、注目される。

次の写真は、満洲拓植公社が発行した社債の券面に挿入するための「日本人らしい」農家として撮影されたものである。今後、日本国内での実際の服装の変化とともに、「もんぺ」がどのように「日本人らしさ」の表象となっていくのか検討したいと考えており、満洲拓植公社のこの写真はその出発点の一つになると考えられる。

図 1 満洲拓植公社、社債用写真(国立公文書館つくば文館所蔵)



## (2) 植民地期朝鮮の生活改善運動と衣生活の変化

②については、ソウルの国会図書館と国立中央図書館を中心に、植民地期の衣生活に関する先行研究と資料を網羅的に収集した。植民地期の変化を明らかにするためにも、それ以前の朝鮮時代からの服装に関する資料も同時に収集した。特に市・郡や面などの地方自治団体で作成した資料の中に当該地域の衣生活の変化や衣類材料・染色・洗濯に関する内容が多く含まれているので、集中的に集めた。また、村落を対象とする民俗調査報告書に掲載されている衣生活関連記事やインタビュー記事も渉猟した。これらの資料の本格的検討は次年度の課題である。

また、そのような衣生活の変化のひとつの要因と考えられる総督府の衣生活改善に関する資料をソウル大学図書館や東大経済学部図書館で収集し、内容を分析中である。

## (3) 染色講習会

③に関しては、韓国国史編纂委員会のデータベースから『東亜日報』の「染色講習」に関する記事を集積し、これを分析し、以下のような結果を得た。

『東亜日報』の記事において、染色講習会の実施を報告する記事は約 100 件ほどである。各記事の地域別、時期別の掲載状況は次の表に示す通りである。

表1. 朝鮮各地染色講習会実施状況(『東亜日報』記事による)

地域	1920～29年	1931～33年	1934～36年	1937～39年	合計
咸鏡道	0	8	4	0	12
平安道	0	10	1	0	11
黄海道	1	12	0	0	14
開城	0	1	1	2	4
江原道	0	7	0	0	7
京畿道	0	7	3	0	10
京城	1	2	1	0	4
忠清道	0	9	0	2	11
慶尚道	4	8	9	1	22
全羅道	0	5	0	0	5
合計	6	73	19	5	100

これによれば、1930 年代を中心とした、とりわけ 1931～33 年に記事が集中していることから、染色講習会が農村振興運動と連動しながら各地で展開されていたことが分かる。また、地域分布を見ると、ある程度広く講習会が実施されていた中で、慶尚道に集中している一方、全羅道ではあまり見られなかった。

講習会では、白衣を黒、灰色、青、赤色等に染める技術の講習が行われ、また参加者が持参した衣服(白衣)に染色が施された。開催場所は、普通学校、郡府庁、面事務所、郷約会館、郷校、農村振興会館、市場等であり、主催者は各道府郡、道庁産業課、農会、農会織物組合、郷約会、婦人会、振興会、教育会等であったことから官製的な性格の強いキャンペーンであったと言える。講習会の実施にあたって一般婦女子への参加が呼び掛けられたが、実際には面職員や教員、婦人団体の幹部を染色技術を広める指導者として育成することを主な目的としていた。講師陣には、道技師、勸業課長、任淑宰(大邱女高普教諭)のような当局の職員や教員の他には、朴于燦(東京手芸染色協会)、林慶星(東京高等工業学校染

織科卒)、金光芝・金檜山(東京手芸研究会)佐藤清蔵(東京手芸染色協会)、千葉利右衛門(京城染料商会主任)、朴憲世(三井洋行の副技手)、川崎善(大阪三国工業所染色部満鮮指導員)のような産業界の各氏が名を連ねていることから、染色講習会が、一方では、染料の宣伝という商業的なキャンペーンと連動しながら展開していたことを指摘できる。

つまり、色衣奨励のための宣伝を目的とする染色講習会は、農村振興運動期を中心とした時期に、官主導で地元有志達を巻き込みつつ、時には産業界の利益と連動しながら展開されたキャンペーンであった。これによって、染色方法や、あるいは染色が必要であるという概念が、ひとまず中堅的な婦女子に広まり、これがその後の色衣奨励運動に波及力を持ったであろうと考えられる。

### 〔3〕 植民地期朝鮮人の衣生活に対するインタビュー

文献収集とあわせて、当該時期を記憶している方達のインタビューを韓国と日本で行って、生活改善の具体的な状況や衣生活の実態を調査した。特に、総督府の衣生活改善運動の重要な政策である色衣奨励がどの程度の強制力を持ち、一般に浸透していったのかをポイントにした。インタビューは2009年9月5日～7日、11月22日、同30日、2010年1月5日、2月2日、同9日に行い、75～91歳の女性7人(1人は日本人)、男性2人を対象にした。インタビューは1人に対し、2回行うこともあった。インタビュー対象者等の個人情報には以下の通りである。

表2 インタビュー対象者

名前	生年	出身地	現住地	経歴	適用
安阿順	1915年	京畿道徳水里	京畿道楊州市	学歴なし、主婦	
李英淑(平山)	1917年	慶尚南道陝川	日本鹿児島市	学歴なし、主婦、平山商店経営	
李應百	1923年	京畿道坡州	ソウル市	ソウル大学教授、国語学者	男性
権貞玉	1929年	慶尚北道安東	京畿道	安東で国民学校教師、主婦	
金昌浩	1932年	慶尚北道義城郡	慶尚北道大邱市	成均館大学、バス会社経営	男性、朴福蘭の夫
李源芳	1933年	忠清道保寧郡	京畿道坡州市	国民学校教師、主婦	
朴福蘭	1935年	慶尚北道義城郡	慶尚北道大邱市	義城国民学校教師、主婦	
李英子	1938年	江原道江陵	ソウル市	日本大正大学大学院 東国大学教授	仏教学、母崔竹姫1906年生同席
木島秀子	1919年	山形県	東京都三鷹市	京城帝大卒、戦後武蔵野市で小学校校長	

インタビューを通してわかったことを、表にすると以下の通りである。

表3 植民地期における衣生活の現状(インタビューによる)

	女性服	男性服	色彩	洗濯
安阿順	白い服は着なかった、白は喪服。結婚前黄色いチョゴリ、真紅のチマ、結婚後ピンクのチョゴリ、紺や黒のチマ	夫洋服、同居の義父等は白の韓服(安氏が作る)		1週間に1度川辺で。冬は温かい水を求めて泉水で。苛性ソーダで漂白。糸を解いて洗濯した後また縫う。
李英淑 (平山)				洗濯は川で。洗剤を入れて煮て漂白。麻の服は小麦粉でのり付け。
李應百	韓服着用	師範学校入学写真は韓服、その後制服(洋服)、作業服	白	洗濯の時はほどいて又縫う。パギオというミシンで縫った既製服はそのまま洗う。オンドルの灰の汁、または苛性ソーダで漂白。綿入れは糸を取って洗濯後縫い直す。
権貞玉	女学生(安東女高)は黒に線の入った上衣と黒または紺色チマ、その後黒のもんぺに。家では韓服	祖父は韓服	女性の韓服の色は多様	井戸からポンプでくみ上げた水で洗濯。
李源芳	国民学校へは韓服、冬は黒色の綿入れ	父は面長なので役所には洋服(日本製)、家では韓服	韓服上衣白、チマ黒。冬は黒	川で洗濯。女学校寄宿舎に洗濯場。チョクサム(単衣上衣)はほどいて洗濯。
朴福蘭 金昌浩 (夫妻)			染色工場で黒に染色。市場で染色。	川で。豆の汁で漂白。夏服は衿部分を取って、洗濯後また木綿で作って縫い付ける。冬服は半月に一回くらいほどいて綿を抜き取って洗濯し縫い直す。
李英子	上流は長いチマ(スカート)、下層はトンチマという筒状に縫ったスカート着用。黄色いチョゴリにピンクチマ着用。国民学校はセーラ服。4年の時は白(または模様)のブラウスに灰色のもんぺ着用。防空ずきん・非常袋持つ。	兄は中学生で制服に脚絆着用	ツルマギ(コート)の色は黄緑。一般人の服は白または灰色(黒は着ず)。	

すなわち、インタビュー対象者の年齢、出身地、位置する階層(今回の対象者のほとんどが上位階層に位置し、当時としては相当な教育を受ける)によっても差違はあるが、家庭にいる女性は韓服着用が多く、男性は公務員等の場合、職場では洋服、家では韓服着用ケースが多い。服の色は男性用韓服は白、女性用韓服の色は多様である。解放の時点で学生であった対象者が多いため、総督府の色衣奨励についてはほとんどが知らないと答え、記憶している韓服の色から類推すると色衣奨励の対象は男性用韓服であった可能性が高く、普及率は低かったと考えざるを得ない。

また洗濯の仕方については、対象者の記憶がほとんど一致し、川が洗濯場となっていたこと、灰汁や苛性ソーダを入れて煮沸して消毒・漂白したこと、夏服はそのつど糸をほどいて洗濯した縫うという大変手間の掛かる方式が多いが、ミシンで縫った既製服はそのまま洗濯したこと、冬服の洗濯回数は半月に1度くらいで、中の綿を取って洗うため糸をほどいたこと等がわかった。また、太平洋戦争期には家でも学校でも男性は脚絆、女性はもんぺを着用したことがわかり、日本の労働服であるもんぺの植民地への普及過程を調べる必要を感じた。

インタビュー記録は衣生活の部分のみならず、植民地期の生活記録として大変重要な証言を含んでいるので、翻訳して雑誌に掲載し、残していく予定である。

図 2 朝鮮女性のもんぺ姿(『鮮文版 半島の光』1943年7月号グラビアより)

